

令和 8 年度（2026 年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題案

刑 法

B 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は 2 枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和8年度（2026年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を、具体例を示しつつ説明しなさい。

- (1) 刑法の場所的適用範囲
- (2) 犯人蔵匿等罪における「罪を犯した者」の意義

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、業務妨害罪、特別法違反の点および公共の利害に関する特例について検討する必要はない。

A新聞の記者であるXは、B大学法科大学院でC法を教えるDが、学生らに対して悪質なアカデミック・ハラスメントをしているという話を聞きつけ、調査・報道の必要があると判断した。Dがなかなか尻尾を出さないため業を煮やしたXは、この際Dの家に侵入して証拠を押さえる必要があると考えた。

Dが県外に出張していることを知ったXは、某日、D宅の窓ガラスを割って侵入し、Dの机の中を物色したところ、「マル秘：学生対策いやがらせメモ」と題する文書（以下、「本件文書」という）を発見したため、情報は真実であったと判断し、報道のため本件文書を持参した鞆に入れて持ち去った。

翌日、Xは「B大学法科大学院のC法担当教員が学生に対しハラスメント行為を行っている」という趣旨の記事を、本件文書の内容と併せてA新聞に掲載して公表した。

記事にはDの実名は記載されていなかったものの、B大学は教員一覧をウェブサイト上で公表しており、それによるとC法担当教員はDのみであった。

以上